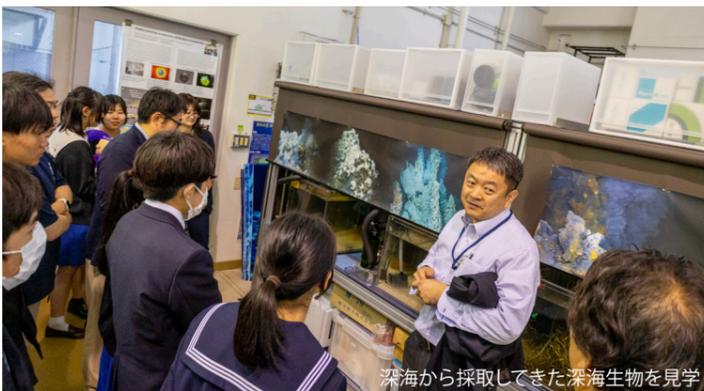


### CONTENTS 目次

- 2 特集 夢中人「高野 淑識」
- 6 応援大使・手話 ほか
- 8 ヤイタゴハン・図書館へGO！ ほか
- 10 今月のニュース&トピックス
- 13 はつらつ通信
- 14 市からのお知らせ
- 24 ゆかりびと・編集後記



深海から採取してきた深海生物を見学



母船よこすか操舵室



しんかい6500の実物大模型に乗船



施設内のカフェで高野さんとランチ



## 特集 夢中人「高野 淑識」

生涯学習フェスティバル実行委員の中高生と一緒に、国立研究開発法人 海洋研究開発機構 (JAMSTEC) で働く高野 淑識さんを訪ねました。

深海と宇宙を職場とし、未だ解明されていない物質の起源や進化の謎を研究している高野さん。その最先端の現場を案内していただき、しんかい6500やその母船よこすかなどを見学しました。



### COVER 表紙の写真



表紙は、高野さんのご厚意により、普段見ることができない有人調査船「しんかい6500」を見学した時の様子です。お忙しい中、市の子どものためならと、企画を受け入れてくれたそのお人柄に、大人も子どももワクワクが止まらない1日を過ごしました。



母船よこすか内会議室



深海の様子がわかる、展示棟「海洋科学技術館」を見学

「好きなものを追いかけていたら、いつの間にかこんなことになっていました」そうって笑顔を見せる高野さん。今号では、市長と共に高野さんの魅力に迫ります。

国立研究開発法人 海洋研究開発機構 (JAMSTEC)  
生物地球化学センター長/上席研究員  
国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 (JAXA)  
客員教授

### 高野 淑識氏

1975年矢板市生まれ。  
日新小、泉中学校、大田原高校、筑波大学・大学院を経て博士号を取得。

有機物のスペシャリストとして、「はやぶさ」初号機のサンプル分析に携わり、「はやぶさ2」では、サンプラーチームとしてオーストラリアでのカプセル回収と分析を担当。分子レベルでの有機物分析を通じて太陽系物質の起源や有機分子の進化の謎を解き明かすなど、世界的な活躍を続ける研究者のトップランナー。

#### 【近年の受賞歴】

- 2024年 日本有機地球化学会「学術賞」
- 2021年 「はやぶさ2」試料の地球帰還に関する栄誉賞 (JAXA Honor Award Hayabusa2)
- 2020年 日本機械学会 宇宙工学部門 宇宙賞 (はやぶさ2 サンプラーチーム)



### POPULATION 人口 (6月1日現在)

29,810人 (△36)	出生	11人
男 14,866人 (△14)	死亡	33人
女 14,944人 (△22)	転入	58人
13,340世帯 (△7)	転出	72人
( )内は5月1日との比較	※住民基本台帳をもとに算出	
△は減		

## 特別対談

共通点は、矢板市生まれで野球少年、そしてまさに今、「夢に向かって情熱を注いでいる」ということ。そんなお二人が思うお互いのことについて語り合いました。



子どもの好奇心・探究心を  
育める地域づくりを

矢板市長  
**森島 武芳**



心を動かす何かを  
見つけてほしい

JAMSTEC 生物地球化学センター長  
**高野 淑識**



# あなたの 夢

は何ですか？

### 小さい頃はどんな子でしたか？

**高野** すみれ幼稚園出身だったこともあり、長峰公園でよく遊んでいました。虫をとったり、野球をしたり。今でも自分にとっての憩いの場で、今年もゴールデンウィークに帰省した時、遊びに行きました。昔の長峰公園には野球場があって、学童野球で試合をやった思い出もあります。

「虫」「星」「石」がとにかく好きな子でした。空気がきれいな矢板の星空は、本当に美しいと感じていたし、いろいろな種類のクワガタやカブトムシを毎日のように捕まえていました。あまりにも捕まえてくるので、両親から「魚市場に出店したら？」と勧められて販売した思い出があります。初めての現金収入はクワガタでした。化石や鉱物にも興味があって、那須塩原市などの山に連れて行ってもらい、岩石ハンマーで採取していました。「なんてすてきな結晶なんだろう」って石を見てうっとりしていたのが子どもの頃の私です。親は変わった子だと思っていたと思います（笑）。

**森島** 石や星が好きだったなんて、今の仕事に直結していますね。

**高野** そうなんです。子どもの頃から好きなことに没頭してきたら、今の状況になりました。

**市長** 好奇心を積み重ね続けた結果、誰も解明していない謎を解き明かす、地球人の最先端で活躍する「今」につながったということですね。

**高野** いえいえ、そういう意識はあまりないですね（笑）。

中身は虫とり少年の頃と変わってないです。市長はどんな子でしたか？

**市長** とにかくスポーツに没頭していました。学童野球のほかにも器械体操・水泳・アルpensスキー・剣道など。「なんでこの技ができないのか？」「どうして負けたのか？」「なんで？」「どうして？」と、とにかく疑問を父親によく投げかけていた記憶があります。好奇心を持って没頭していたという点では、似ている部分を感じました。

**高野** 私も野球・柔道・ラグビーなどのスポーツをやってきました。スポーツは団体も個人もマネジメントに似ていて、人間関係の勉強になったと感じています。スポーツで言うと、市長は矢板市というチームのキャプテンですね。そういう大志を持っている方であり、その点に大いに敬意を表します。市長の人となり・キャプテンシーが矢板市にじわじわ浸透していくのが楽しみです。

**市長** 身に余るお言葉です。ちょっと変わっているだけなのかも知れません（笑）。でも、矢板市に変化を加えられるよう努力の真っ只中です。

**高野** 市長、安心してください。変わっているのは私も同じです（笑）。中学校の理科で、水（H<sub>2</sub>O）を分解すると水素と酸素が2：1の割合になることに素数の美しさを感じ、純粋に感動したのを覚えています。乾電池を分解して炭素棒を取り出し、身近な材料で実験してみたら本当に2：1になって、改めて感動したんです。教科書に書いてあるから当たり前なんですけど、体感することで別の感動もあって、おもしろさを感じてニヤニヤしていました。隣の席の子に実験結果を熱弁した記憶があります。

**市長** その感動はクラスメートに伝わっていましたか？（笑）

**高野** ぼかんとしていたかもしれない（笑）。当時は生徒会長をやっていた、自分の感性で気づいたこと、感じたことをよく発言していました。「男子は坊主頭」という校則だったのですが、「髪は自由でいいのではないか」という意見があり、確かにそうだなと思っていろいろ考えました。校則を変えるために先生に相談して生徒全員にアンケートを取ったり、生徒総会で可決したり、校長先生に後押ししてほしくて、校長室に直談判に行ったり。その甲斐あって、翌年から「髪は自由」という校則に変わりました。

### カッコイイ大人であるために

**市長** 好奇心や探究心と同じサイズ感で発言力や行動力もお持ちなんですね。また、クワガタの販売を勧めたご両親や、背中を押してくれた校長先生など、周りで関わってくれる大人の存在も、大きな支えになっていると感じました。

矢板市としても、子どもたちの好奇心・探究心を育める環境を作りたいと思っています。第二・第三の高野さんを生み出せたらうれしいですね。

**高野** それは私もうれしい。小学生の時、ハレー彗星が地球に近づいたというニュースを見てワクワクしていましたが、当時ハレー彗星の研究に没頭していた若い研究者が今のJAXA 相模原の所長で、今一緒に「はやぶさ2」の仕事をしています。

**市長** 30年を超えて、憧れの人と同じレールの上で再会したんですね。ロマンがありますね！

**高野** 大人が夢に向かって楽しそうにしていると伝わるんですね。私もそういう大人でありたいし、いつかそんな若者に出会えたらうれしいです。



生涯学習フェスティバルスピンオフ企画

## トークイベント 夢中人 MUCHUJIN

夢中になって好奇心を積み重ねた結果、地球イチ最先端の研究に携わる矢板市出身の研究者 高野 淑識氏。その人生観に触れ、好奇心・探究心の源に迫ります。

日時 / 7月19日（土）13：30～15：30

場所 / 文化スポーツ複合施設



詳しくはこちら

**入場無料** & 事前申込不要

小さなお子様連れの方大歓迎  
(キッズスペースあり)

問い合わせ / 生涯学習フェスティバル実行委員会事務局

☎ (43) 6218